

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■78■

群馬県での生活は豊かだ。これは東京に長年住んでいたからこそ、よく分かることだ。

まず物価が安い。消費者物価の地域差指数をみると、群馬県は2019年の最新データでは47都道府県中で何と45位。すなわち全国で3番目に物価が安いのだ。しかも全国平均を100とすると、96・6。一方、東京は104・7。何と8・1も差があるのだ。群馬で東京と同じ生活をしたとしても、家計支出は群馬県の方が東京よりも8%も少なくて済むということだ。これは素晴らしいことでは

物価安く豊かな生活

ないか。

品目別で比較してみると、「住居」「教養娯楽」「教育」「光熱・水道」が全国平均よ

りもかなり安い。すなわち①土地が安い②公教育が充実しており、教育費が安い③水が安い④ということが背景とみている。

群馬県での生活が豊かなのは、物価が安いということだけではない。価格に見合った品質、サービスが得られるのだ。だいたいどこのお店に入っても、期

待を裏切られたことがない。というよりも、期待を上回る満足感が得られるのだ。

昼食時に、あるうどん店に入った時の話。天ぷらが「1個70円」と書いてあったので、東京の感覚から「2口ぐらゐの大きさなのかなあ」と勝手に想像。

らのお皿は直径30センチくらい。「超デカ盛り」なのだ。そして、食べてみると、これがサクサクで美味。一気に平らげてしまった。かなりの量だったので、夕食は結局食べずじまい。

こうした品質、サービスの高さはどこからきている時の顔は笑っているのだ。

県民にサービス精神

群馬県では本当にさまざまなものが、それほど苦労せずに手

おなががすいていたこともあって、2種類注文した。いぎ、うどんと天ぷらが出てきたら、びっくり。うどんのおわんも大きかったが、天ぷらのお皿は直径30センチくらい。超デカ盛りなのだ。そして、食べてみると、これがサクサクで美味。一気に平らげてしまった。かなりの量だったので、夕食は結局食べずじまい。

岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年

7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。